

令和7年度 福津市一斉防災訓練の結果について(報告)

1 訓練の参加状況等

(1) 必須訓練

人口・世帯数は令和7年10月末現在

年度	人口(人)	世帯数(世帯)	避難者数 (参加率)
令和6年度	69,115	30,500	9,258人 (13.39%)
令和7年度	69,458	30,939	10,333人 (14.87%)
比較	+343	+439	+1,075人 (+11.6%)

(2) 任意訓練

郷づくり、自治会実施分

年度	参加者数(人)	前年度比較
令和6年度	3,229	+1,222人 (+37.8%)
令和7年度	4,451	

(3) 郷づくり別の集計

(単位:人)

地域	勝浦	津屋崎	宮司	福間	福間南	神興	神興東	上西郷	計
必須	250	778	741	3,903	2,010	1,107	843	701	10,333
任意	173	410	280	1,164	678	507	889	350	4,451
人口	1,033	8,653	8,563	18,121	16,333	6,552	7,506	2,697	69,458

※ 地域により人口や地域性が異なるため、参加者数はあくまで指標のひとつ

(4) 市職員研修

年度	参加者数	前年度比較	訓練内容
令和6年度	72人	-3人 (-4%)	■福津市災害図上訓練 ■防災研修(熊本県の風水害、地震対応などからの教訓) 講師 熊本県初代危機管理防災企画監(防災軍師) 有浦 隆 氏
令和7年度	53人	-19人 (-26.3%)	■災害対応の検証(災害対策本部員) ■福津市災害図上訓練 防災学習+ワークショップ型研修 「支援と受援を考える」～災害対応と制度の先を見据えて～ 講師 災害支援ふくおか広域ネットワーク 会長 平川 文 氏 ■防災研修「地域での防災の取り組みについて」 講師 九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター教授 博士(工学) 三谷 泰浩 氏

※ 災害図上訓練と防災研修の二部構成

(5) 学校等の訓練

年度	参加者数	前年度比較
令和6年度	6,425人	+172人 (+2.6%)
令和7年度	6,597人	

※ 小学校の児童引き渡し訓練の保護者の参加者数を含む。

学校等別の集計

学校名等	訓練概要	参加者数(人)		備考
		児童生徒等	保護者等	
上西郷小	防災学習 児童引渡し訓練	155	220	避難訓練と児童引渡し訓練
勝浦小	防災体験活動	87	—	避難訓練と地域の訓練への参加
津屋崎小	児童引渡し訓練	1,011	500	避難訓練と児童引渡し訓練
福間南小	防災学習 児童引渡し訓練	1,500	1,200	避難訓練と児童引渡し訓練
神興小	避難訓練	298	—	
神興東小	児童引渡し訓練	445	255	避難訓練と児童引渡し訓練
津屋崎中	防災イベント模擬 避難所訓練 動画視聴	486	—	各地域郷づくりの防災訓練等に参加
福間東中	避難訓練	440	—	11/8 中1なまズの郷へ避難 10/8 中2防災学習会(NHK) 11/8 中3避難所運営学習会 (県防災士)
合計		4,422	2,175	
			6,597	

2 訓練を通じての感想や意見

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○		○			電子掲示板や回覧版で事前に訓練の案内を実施したところ幅広い年齢層の住民が参加した。
○		○			掲示方法や場所の周知徹底が課題。本部への迅速な報告及び情報共有のため、電子化を検討する必要がある。課題として組によっては全く参加がなかった。
○	○				参加者が昨年より多く、通り堂住民の防災意識の高さを感じることができた。
○		○			昨年より参加者が大幅に増えた。防災無線が聞こえにくいという世帯があったので、有線放送で連呼する必要性を感じた。
	○				仕事で不参加の方も多くいましたが、災害にあったので訓練に対する意識が高かった。

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○	○		○		自治会加入世帯中半数以上が参加し防災への関心が高いと分かった。地域の高齢化問題を認識し、災害時の避難・誘導がスムーズにいか考えさせられた。
	○		○		避難された方のヘルメット着用が多く、防災意識の高さを感じた。
			○		少し寒かったが年配の方を含め、遠くからも避難できた。課題は、高齢化のため、地形的に坂道が多いので、天候不調の場合の行動を考える必要がある。
○	○				参加者数は横ばいだったが、自治会未加入者数名が訓練に参加し、自治会加入の申し入れがあった。
○	○				参加者が多かった。サイレンが鳴ると去年より素早く集まるなど、防災意識を強く感じた。
○		○			組長の声掛けや回覧文書を工夫した割には参加者数が伸びなかった。
			○		組ごとの点呼確認がスムーズにできず、実際の災害時の避難困難者等の安否確認に不安を感じた。
○	○		○		訓練は、交流及び安否確認の機会となっており、参加者数に反映されている。白タオル確認は組長同士が協力して行い避難世帯を把握することができた。前年度の組長にプラカードを持ってもらうことで共助の絆が強まっている。避難者をスムーズに集計できた。組長の高齢化により訓練の世話役が難しくなっている。避難経路が凸凹になっており、転倒の危険があるので、避難経路の確認が必要になっている。
			○	○	高齢化が進み、公民館に自主避難できない方の把握ができない状況なので、隣近所で協力し合い対処する。自治会での発電機等の備蓄を考えたい。
○			○		参加者は昨年と同程度だが高齢者の参加が少ない。高齢者の避難について、今後の自主防災組織の在り方を検討する必要があると考えた。各自自主避難や垂直避難の再確認をお願いした。
○					参加者が増えないので、いざというときの共助に結びつかないと思う。
			○		各組で所在地が広範囲なため、同一箇所で行う訓練に限界がある。避難場所の分散と安否確認を行う方法を勉強したい。
○	○				参加者が多かった。危険が身近に迫っていると感じる人が多いためか、防災への関心の高さを感じた。
	○		○		顔を合わせる良い機会になった。高齢者が来るとき近所の人が付き添ってくれていた。防災対策について様々な意見が出たので、区で共有していきたい。
			○		高齢者が多く、災害時は避難補助が難しい。
	○				災害が起きやすい地形の割に住民の防災意識はあまり高くない。あらゆる機会を通じて防災意識を高める措置が必要と感じた。

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○	○				世代に偏りが多く高齢者が多かった。防災意識の向上が課題と思う。
○				○	8月の大雨もあり参加者が多かった。備蓄の備え(カセットコンロや薬、携帯燃料、ビニール袋大中小)を呼びかけた。
○					毎年参加者が少なくなっている。
	○		○		みんな迅速に行動し組長の報告もスムーズで避難者の集計も問題なく、防災意識の高さを感じた。
○	○				当区では自治会アプリ「結ネット」を導入しており、同アプリの「災害モード」を活用し、外出等で参加できない世帯の安否確認も実施し、実際の震災を想定した実効ある訓練となった。
○					想定以上の参加者だった。来年度もさらに多くの方に参加いただける内容を検討していきたい。
○			○		あらためて避難経路の確認ができた。参加してもらえような取組が必要と感じた。他地区の参加状況やこういった取組をされているのか教えてほしい。